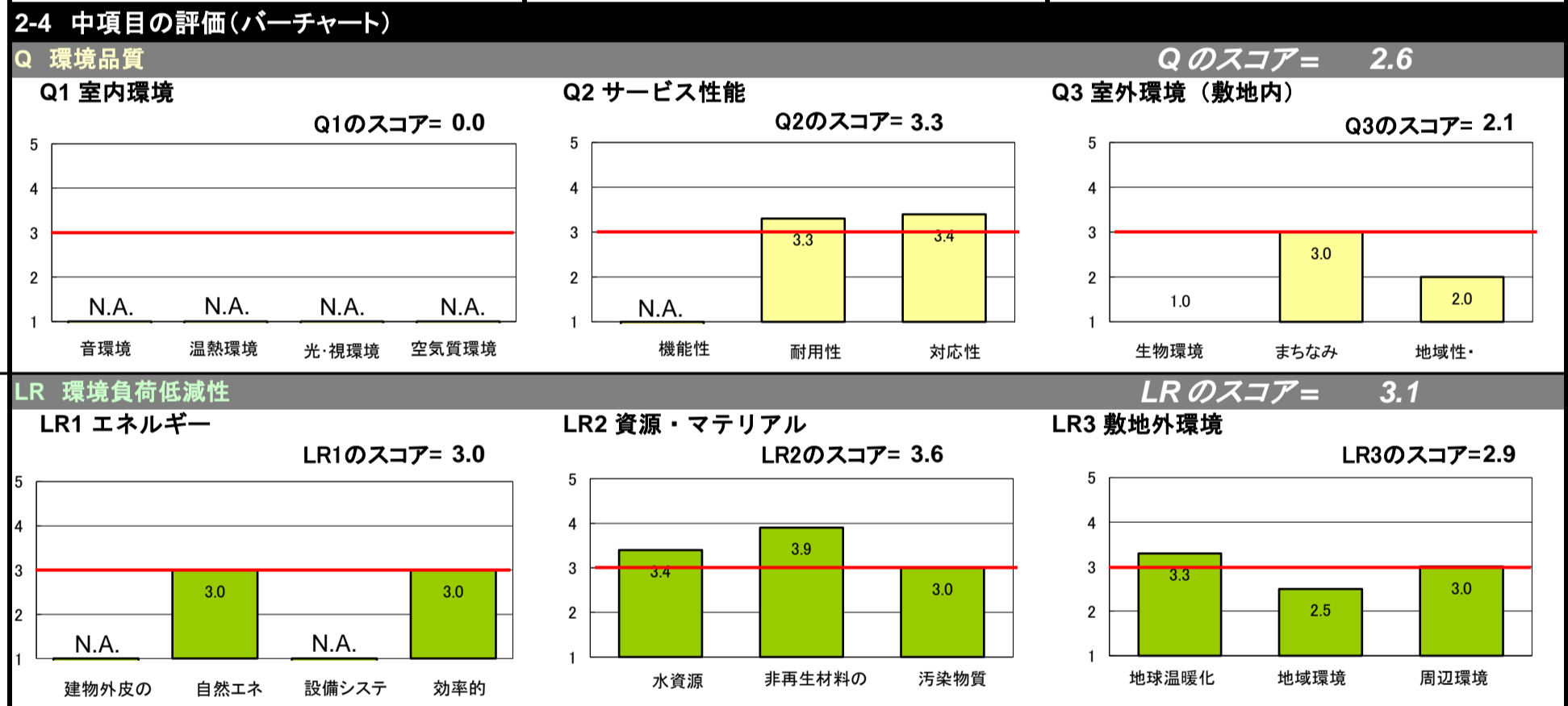
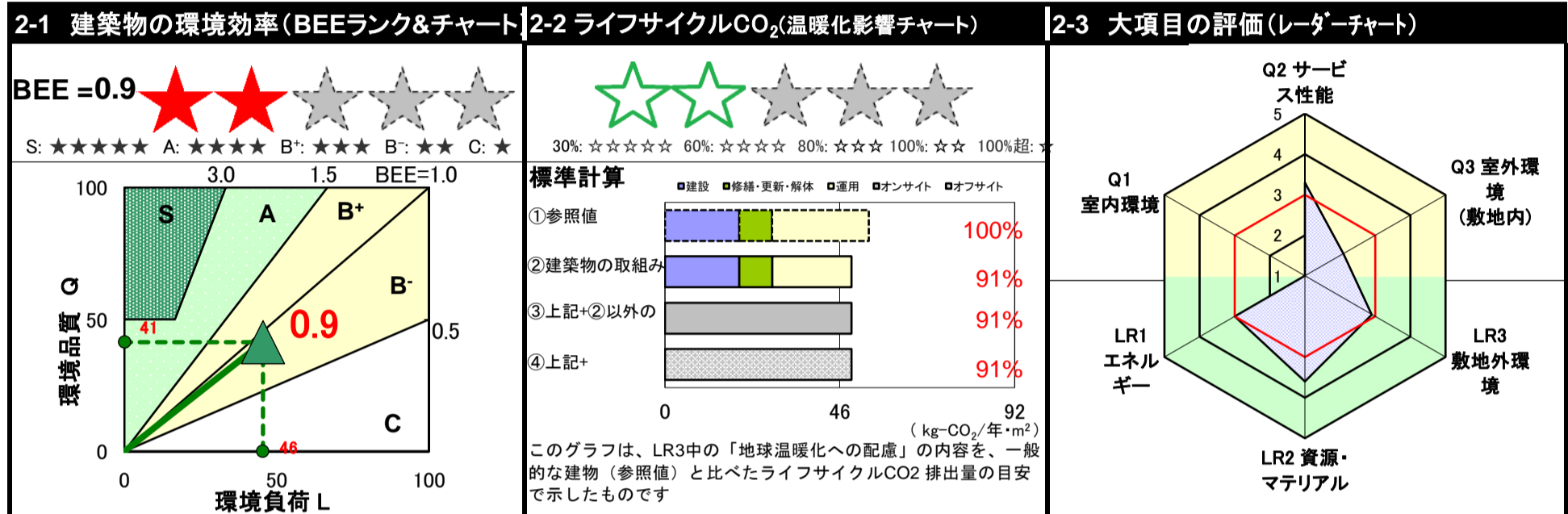


# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	リンナイ株式会社 生産技術センター	階数	地下0階地上5階
建設地	愛知県小牧市大字入鹿出新田字村西837-1他3筆	構造	S造
用途地域	工業地域、法22条区域	平均居住人員	100 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年12月 予定	評価の実施日	2023年4月18日
敷地面積	14,915 m <sup>2</sup>	作成者	加藤 将人
建築面積	2,339 m <sup>2</sup>	確認日	2023年4月21日
延床面積	6,631 m <sup>2</sup>	確認者	犬飼 佳明



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮 <b>3.3</b></p>	<p>③敷地内の緑化 <b>1.0</b></p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) <b>8.5 %</b></p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) <b>0.0 %</b></p>
<p>②資源の有効活用 <b>3.5</b></p>	<p>④地域材の活用 <b>1.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt; なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt; なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 リンナイ株式会社 生産技術センター

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:  
 ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										
<b>Q2 サービス性能</b>										
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 パリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

<b>3 対応性・更新性</b>				0.4	3.4	0.48	-	-	-	3.4
<b>3.1 空間のゆとり</b>				0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		階高:4.400	-	5.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率:0.133	3.0	4.0	0.40		3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>				0.3	2.8	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	2.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					-	0.57	-	-	-	2.1
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>		独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				-	2.0	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>					-	-	-	-	-	3.1
<b>LR1 エネルギー</b>					-	0.40	-	-	-	3.0
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>				3.0	-	-	-	-	-	-
<b>2 自然エネルギー利用</b>				3.0	3.0	0.33	-	-	-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>			BEI=	3.0	-	-	-	-	-	-
<b>4 効率的運用</b>				0.6	3.0	0.67	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30	-	-	-	3.6
<b>1 水資源保護</b>				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
<b>1.1 節水</b>			擬音装置取付	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				0.6	3.9	0.63	-	-	-	3.9
<b>2.1 材料使用量の削減</b>				-	3.0	0.07	-	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>				-	3.0	0.25	-	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		独自	床:タイルカーペット、床:ビニル床シート、床:OAフロア	3.0	5.0	0.21	-	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>				3.0	-	-	-	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		独自	躯体と主要仕上げ材の分別が可能であり、OAフロアを用いている。	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	0.30	-	-	-	2.9
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		①	ライフサイクルCO2排出率91%	-	3.3	0.33	-	-	-	3.3
<b>2 地域環境への配慮</b>				0.3	2.5	0.33	-	-	-	2.5
<b>2.1 大気汚染防止</b>				-	3.0	0.25	-	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>				-	2.0	0.50	-	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>				0.2	3.2	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	荷捌き用車両の駐車スペース、導入路の位置、形状・数を配慮している。	-	4.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

リンナイ株式会社 生産技術センター

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>3.3</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>3.5</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.22
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17
			外構緑化:8.5%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1



## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 リンナイ株式会社 生産技術センター

計画上の配慮事項	
総合	小牧市と大口町に跨る広大な敷地における工場の増築計画であり、敷地内においては、植栽を各所へバランスよく配置し、周辺への環境に配慮すると共に、良好な業務環境の形成を目指している。場内への車両動線に配慮し、荷捌き用車両の駐車スペースを設置して運用上の作業効率を図っている。
Q1 室内環境	工場用途の為対象外
Q2 サービス性能	内装仕上材に、耐用年数の長い部材を使用し、ネットワークによる通信・情報設備を充実させている。
Q3 室外環境(敷地内)	外壁、屋根の形状や色彩において周辺のまちなみや風景、地域環境にバランス良く調和させ、植栽により良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	省エネルギー計算により建物全体のエネルギー性能を把握し、運用時の省エネ効率向上に努めている。
LR2 資源・マテリアル	内装材にリサイクル可能な資材を使用し、かつ部材の再利用可能性向上に取り組んでいる。
LR3 敷地外環境	場内への車両動線に配慮し、また荷捌き用車両の駐車スペースを設置して運用上の作業効率を図ると共に、敷地外への交通負荷抑制の影響に配慮している。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。